広島大学地域経済システム研究センター公開研究会

南米の親米化と社会経済情勢

The Pro-U.S. Shift and Socio-economic Situation in South America

- ブラジルでは現職大統領が再選されましたが、アルゼンチン、チリ、コロンビア、ペルーなどでは右派・中道右派政権が相次いで誕生しています。
- 南米は日本から非常に遠く感じられます。けれども移民を通して日本と歴史的なつながりが深く、今日では鉱物資源、エネルギー、食料などの重要な貿易相手先です。
- 南米主要国は、政治的にはアメリカに接近する一方、経済面では中国への依存が大きいとされます。そのようななかで日本は、南米主要国とどのような関係を構築していくべきでしょうか。
- この研究会では、広島大学に留学経験のあるアルゼンチンの研究者を講師に迎え、南米の社会経済情勢に関する材料提供をしてもらいます。参加者の方々と意見交換をおこないます。

［期日］２０２６年１１月２４日（火）１７：００～１８：１５

［会場］広島大学東千田キャンパス総合校舎Ａ棟４０２講義室

［定員］３０名程度　（無料、予約不要）

［言語］ほぼ日本語

［講師］ルイス・イグナチオ・アルグエロ氏



1977年、アルゼンチン生まれ。ブエノスアイレス大学卒業後、2004年から2010年まで文部科学省（日本）の国費留学生として広島に滞在。広島大学大学院社会科学研究科博士課程前期・後期修了。広島大学博士（経済学）。地域経済学専攻。現在はベルグラーノ大学教授・経済学科長。アルゼンチン外務省国際関係評議会諮問委員なども務める。

（お願い）校内の駐車場は利用できません。公共交通機関をご利用ください。
最寄りのバス停・電停は「日赤病院前」です。

［主催］広島大学地域経済システム研究センター

ecocres(at)hiroshima-u.ac.jp　※(at)を@に置き換えてください。

地球儀はWikipedia。